

健発0326第8号

平成30年3月26日

特定非営利活動法人 日本栄養改善学会理事長 殿

厚生労働省健康局長



管理栄養士専門分野別人材育成事業の実施について

標記事業については、社会状況の変化、多様化・高度化する社会や国民のニーズに対応できる管理栄養士・栄養士の目指す姿を踏まえ、全国の管理栄養士・栄養士養成施設の教育に関する現状分析をもとに、管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの検討を行うことを貴会に委託することとし、その実施要綱を別紙のとおり定めたので、本事業の円滑な実施に特段の配慮をお願いする。

厚生労働大臣 加藤 勝信 殿

特定非営利活動法人日本栄養改善学会
理事長 武見 ゆかり

平成30年度管理栄養士専門分野別人材育成事業委託費の
交付申請について

標記について、次のとおり交付されるよう関係書類を添えて申請する。

記

1. 申請金額 金 10,440,000 円
2. 事業の目的及び内容
社会状況の変化、多様化・高度化する社会や国民のニーズに対応できる管理栄養士・栄養士の目指す姿を踏まえ、全国の管理栄養士・栄養士養成施設の教育に関する現状分析をもとに、管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの検討を目的とし、次の2つの事業を実施する。
 - (1) 多様な社会ニーズに対応できる管理栄養士・栄養士像の提示
 - (2) 管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの作成
3. 事業実施計画書（別紙1）
4. 経費所要額調（別紙2）
5. 経費所要額明細書（別紙3）
6. 添付書類
 - (1) 平成30年度収入支出予算書見込書
 - (2) 定款

別紙 1

事業実施計画書

区 分	事 業 内 容
<p>(1) 多様な社会ニーズに対応できる管理栄養士・栄養士像の提示</p>	<p>平成 29 年度に調査結果をふまえて作成した「管理栄養士として求められる基本的な資質・能力」等を視野におき、また (2) で作成する各部会の栄養学教育モデル・コア・カリキュラム案について、管理栄養士・栄養士が活躍する医療・介護・福祉・学校・行政など多様な領域における関係機関、有識者へのヒアリングを実施する。</p> <p>ヒアリング対象：医療分野の医師およびコメディカル、介護福祉分野の施設管理者・多職種、学校教育現場の管理職・教育委員会関係者、行政の保健所長・保健師・施設管理者、受託給食会社の経営者、国際機関の関係者、スポーツ栄養関係者、食・栄養関連企業の経営者などを予定。一部は親会議メンバーとする。</p> <p>ヒアリングの結果をふまえて、多様な社会ニーズに対応できる管理栄養士・栄養士像を整理する。また、その像と (2) で作成する各部会の栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの内容との整合性を図る。</p> <p>主担当：全体調整会議、大学院部会メンバー。栄養士については、管理栄養士部会のヒアリングの中で併せて実施する。</p>
<p>(2) 管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの作成</p>	<p>管理栄養士部会、栄養士部会、大学院部会の 3 つ設置し、それぞれのモデル・コア・カリキュラムを作成する。コアは教育課程（基礎教養科目を除く）の 6 割をイメージとして絞り込みを行う。</p> <p>① 管理栄養士部会は、平成 29 年度に作成した管理栄養士のモデル・コア・カリキュラムの枠組み（全体構成）、すなわち、A：管理栄養士として求められる基本的な資質・能力、B：専門基礎分野、C：専門実践分野、D：統合分野、E 栄養学研究のうち、まず B と C の具体的内容を検討する。その結果を栄養士部会、大学院部会、</p>

	<p>および親会議に提示する。検討に当たっては、日本栄養改善学会が作成した「管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム 2015」をたたき台とし、平成 29 年度に実施した教育カリキュラムの現状分析結果等をふまえ、検討を行う。B～E の検討では、A の基本的な資質・能力との対応を十分考慮する。</p> <p>② 栄養士部会は、管理栄養士部会の提案を受け、栄養士の栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの検討を行う。また、平成 29 年度の管理栄養士・栄養士のめざす姿分析結果等もふまえ、栄養士に求められる基本的な資質・能力の整理を行う。必要に応じ、管理栄養士のモデル・コア・カリキュラム案への修正を求める。</p> <p>③ 大学院部会は、管理栄養士部会と併行して、大学院レベルの高度人材としての管理栄養士に求められる資質・能力、およびその達成に必要なとされる教育内容（方法を含む）について、医療、介護・福祉、行政、給食経営管理、国際、スポーツ、企業（食品・メニュー開発等）の分野ごとに検討を行い、管理栄養士部会および親会議等への提案を行う。</p> <p>④ 管理栄養士部会と大学院部会は、(1) の関係者へのヒアリングを実施し、モデル・コア・カリキュラムの内容の修正、精査を行う。</p> <p>⑤ 親会議と 3 部会合同の会議（12 月開催予定）を経て、平成 31 年 1 月にパブリックコメントを実施する。パブリックコメントに当たっては、日本栄養士会、全国栄養士養成施設協会、および関連職種の組織や学会にも協力を求め、広く意見を収集する。</p> <p>⑥ パブリックコメントを受け修正を行い、最終的に 3 部会間での整合性を図り、管理栄養士、栄養士、および大学院レベルの高度人材における栄養学教育モデル・コア・カリキュラムを完成する。</p>
--	---

事業実施に当たり、5つの会議体を設置する。各会議体の役割とメンバー構成は以下の通り。

親会議：管理栄養士・栄養士の活動への社会的ニーズが高まると予想される医療、介護・福祉、行政、国際、メディアなど多様な領域における関係者から構成。管理栄養士・栄養士の将来展望をふまえた、より広い視野からの助言と承認を行う。

全体調整会議：学会役員、平成29年度WGリーダー、以下の3部会代表、及び管理栄養士部会の一部を中心に構成。3部会および親会議間の調整、パブリックコメントの実施、全体のとりまとめを担当する。

管理栄養士部会：栄養士法の規定等に基づき、グループ①基礎栄養学・応用栄養学、グループ②栄養教育・公衆栄養学・臨床栄養学、グループ③食品学・調理学・給食経営管理、グループ④社会・環境と健康、グループ⑤人体の構造と機能および疾病の成り立ちの専門分野の委員、約30名で構成。狭い専門分野の視点だけではなく、グループ内関連領域とのつながりで「コア」の絞り込みを行う。④は②の公衆栄養学分野と、⑤は②の臨床栄養学分野と連携調整を行う。

栄養士部会：栄養士法の規定等に基づき、社会生活と健康、人体の構造と機能、食品と衛生、栄養と健康、栄養の指導、給食の運営について、栄養士のモデル・コア・カリキュラムの検討を行う。短期大学部で栄養士養成に関わるメンバー、約12名で構成。なお、栄養士法に基づき、栄養士のモデル・コア・カリキュラムは、管理栄養士のモデル・コア・カリキュラムに内包されるという前提で検討を行う。同時に、栄養士として求められる資質・能力の整理を行う。

大学院部会：より高度な管理栄養士への社会的ニーズが高い分野、すなわち、医療、介護・福祉、行政、給食経営管理、国際、スポーツ、企業（食品・メニュー開発等）の各分野が求める高度人材としての管理栄養士の資質・能力を整理し、その修得のための教育課程と方法の検討を行う。大学院でこれらの分野の高度人材養成に関わる教員と受け入れ側の現場の者、約14名で構成。

事業実施スケジュールは、以下の通りである。

